



下大和田谷津田だより



2004年3月号

第49回「下大和田谷津田の 観察会とゴミ拾い」報告

2月1日 晴れ

暖かい日が続いたにもかかわらず、田んぼの日陰は大人が乗っても割れないほどの氷が張っていました。厚いところは3cmにもなっていました。こうした厳冬期ですがニホンアカガエルの卵塊が1つ早くも産んでありました。そこは田んぼの中に水が湧いているところの近くで、他より水温が高いのでしょうか、メダカも水面に姿を現していました。開花植物はますます少なくなりました。鳥は期待した猛禽類は現れませんでした。昼食中に小川の畔の柳の枝にカワセミがとまって、その輝きに皆んなで歓声をあげました。心づくしのみそ汁とともにたいしたご馳走でした。お昼には清水さんから鹿殿神社のいわれなど足で調べた下大和田の歴史のお話をいただきました。今年から田んぼ脇の斜面林の手入れをすることになりましたが、森林インストラクターの山田寛治さんに来ていただき斜面林をざっと観察し、手の入れ方について相談しました。まずは笹刈りから始めることにしました。

開花植物：セイヨウタンポポ、オオイヌノフグリ、ナズナ、タネツケバナ。

水生生物：メダカ、カワニナ、ヨコエビ、アメリカザリガニ、ニホンアカガエルの卵塊。

野鳥：キジバト、カワセミ、コゲラ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、カシラダカ、アオジ、カケス。

(参加者:大人14人 子ども1人 報告:網代春男)

第33回谷津田プレラント・プロジェクト(YPP) 田んぼづくり、林づくり 2月22日 晴れ

5月のような暖かな陽気のもと、作業中心のイベントとしては大勢の大人22人、子ども12人が集まりました。

最初に1時間ほどかけてアカガエルが産卵した田んぼを観察。早くに産みつけられた卵は既に孵って、まだ動きがにぶい、小さな棒のようなオタマジャクシが黒い塊となっていました。アカガエルの卵を見るのが初めての方も多く、興味津々で観察したり、卵に触ったり。一番最初に産卵された大塚さんの田んぼでは大きく育ってオタマジャクシらしい形になって元気よく泳いでいました。

作業は田んぼグループと林グループに分かれて行いました。田んぼの方はカヤネズミ田の大崩れの補修。一度畦をくずして作り直し、しっかりと水を貯められるようになりました。水が入った田んぼにはセグロセキレイの夫婦がやってきて、しきりにさえずっていました。水が少ないところに産み付けられたアカガエルの卵は、子どもたちが深い場所に引越させたので安心です。林の作業は剪定ばさみで笹を切る作業。1本1本切るのは時間がかかる大変な作業ですが、みんなの力で取りかかると暗かった林がどんどん広く明るい空間に変身していきました。

すっかりきれいになって、「入ってみたい」と感じるようになった林では、子どもたちが秘密基地を作ったり、倒れた木に乗って揺すってみたり、藤づるでターザンごっこをしたりと、さっそく様々な遊びが始まりました。極めつけは最後に作った藤づるのブランコ。林の中の大きなブランコは子どもだけでなく、大人にも大人気。みんな何度も何度も乗って、暗くなるまで林の中に笑い声が響き渡っていました。これからが楽しみです。イベントの様子はちば環境情報センターとちば・谷津田フォーラムのホームページ (<http://www.ceic.info/> or <http://yatsuda.2.pro.tok2.com/>) に掲載していますので、ぜひ、ご覧下さい。

(参加者:大人22人・小学生9人・乳幼児3人、報告:高山邦明)

下大和田季節のたより

2月9日 田んぼのあちこちにアカガエルの卵塊。今年は2月2~3日が産卵のピークだった模様。

2月14日 アカガエルの卵塊はみんな米作りをしている田んぼだけでも100個を超え、例年よりも多い。シジュウカラのさえずりが聞こえる。

2月22日 アカガエルの卵の孵化を確認。シジュウカラやセグロセキレイのさえずりがにぎやか。

2月28日 早朝、一面に霜が降りていたが、ウグイスのさえずりを今年はずじめて聞く。

(報告:高山邦明)

アカガエルのオタマジャクシが誕生しました。タネツケバナやナズナが次々と花を開き、ウグイスのさえずりもはじまって、いよいよ谷津田に春がやってきました。これからはどんどん春が進んでいきます。皆さんも身近な谷津田に出かけて春さがしをしてみませんか？

高山邦明